

大泉特養便り第245号

大泉特別養護老人ホーム 電話 03-5387-2201

令和6年12月9日発行 編集：津波古

令和6年度自衛消防訓練審査会 **優勝**

石神井消防署主催の自衛消防訓練審査会に施設から高橋介護士、松本介護士が参加し、見事優勝しました！空気が乾燥しやすい時期は、火災も多く発生しやすくなります。施設でも引き続き、お客様に安心して過ごしていただけるように防災意識を高めていきたいと思えます。優勝おめでとうございます！！



大規模改修工事に関するお知らせ



12月中より施設周りに足場を組んでいきます。施設内に工事による騒音も予想されます。面会にお越しの際は、予めご承知おきください。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

医務室からのお便り

日頃より施設の医療体制にご理解・ご協力いただきありがとうございます。今回は高齢者に多い病気の誤嚥性肺炎についてお伝えします。

『誤嚥性肺炎とは？』

通常、食べ物は口から食道を通過して胃に運ばれます。

しかし、飲み込む力の低下や気づかないうちに、食べ物・飲み物・唾液などが胃ではなく肺に入ってしまうことがあります。これを誤嚥と言います。

誤嚥性肺炎とは、食べ物・飲み物・唾液などが誤って気管に入り、そこから肺に入り込むことで、肺に炎症が起こる病気です。誤嚥により食べ物が肺に入ると、食べ物や唾液の中に含まれていた細菌も一緒に、肺の中に入ってしまう。症状は発熱、咳、痰、呼吸がしにくいなどがあります。



年を重ねて飲み込む力が低下すると、睡眠中などに唾液を少しずつ誤嚥することもあります。このような誤嚥を不顕性（ふけんせい）誤嚥と言いますが、不顕性誤嚥では明らかな症状が現れないまま誤嚥性肺炎を起こすことがあります。

『誤嚥性肺炎の予防はどうしたらいい？』

- 口腔ケア・・・口の中を清潔にすることで、口腔内の細菌を減らします
- 口腔体操・・・口の周りの筋肉を鍛えることで、飲み込み力や噛む力を維持・向上します
- ゆっくりとよく噛んで食べる。
- 飲み込みやすい食事形態や水分の工夫。

施設では歯科医師の往診による嚥下内視鏡検査（2カ月に1回）を実施し、飲み込みの評価・食事形態や水分のとりよみの必要性・食事時の姿勢などの助言をもらっています。